

目次

1 高次脳機能障がい者への
看護師の関わり

2 研修会報告

3 編集後記

1. 高次脳機能障がい者への看護師の関わり

高次脳機能障がいの患者さんと関わる時、看護師はどんな視点を持っているのでしょうか？今月号は、看護師によるコラムです。

高次脳機能障がいには様々な症状がありますが、看護師が一番気を付けている事は「患者さんの安全」です。例えば注意力の低下がある患者さんは車椅子のブレーキをかけ忘れたり、歩行中によそ見をしてしまったりすることが良くあります。その結果転倒して怪我をしてしまうことも考えられます。看護師は患者さんに対して注意を向けるように声を掛け、文字や絵などで表示をして患者さんが気づきやすいように工夫し、注意力の喚起を行います。



また例えば「病識欠如」という症状があります。病識欠如とは文字通り患者さんご自身が「病気ではない」「どこも悪くないのになぜ入院するのか」と考えており、入院している必要性を理解できず、入院継続にあたって問題となることがあります。さらに病識がないことで家に帰りたいたいという願望が強くなり、離院してしまう危険があります。看護師は患者さんが病棟を離れたらブザーが鳴る機械を用いたり、定期的に（瞬間的にでも）居場所の確認を行ったりして離院を防ぐことを心掛けています。



しかし安全を優先するあまり患者さん自身を抑制するだけでは患者さんが辛くなってしまいリハビリが進まない事があります。家に帰りたいたい、と思う患者さんがいれば、まだ家に帰れないことを説くのではなく、どうすれば家に帰ることができるか？と一緒に問題解決に取り組む姿勢が必要と感じています。

高次脳機能障がいは幾つかの症状が重なって現れる事が一般的です。その人自身の元々の性格や習慣、生活環境等色々な影響を受けやすいという特徴もあります。患者さんは自分自身の病気に戸惑い、苦しんでいることをまず理解し、初めから全てを否定するのではなく本人のやり方もひとつの方法として認め、本人と生活の場の両方にあつた方法を探してすり合わせていくことが大切です。



さつまいもには、食物繊維が多く含まれているため便秘予防や改善、しいては大腸ガン予防にも効果があると言われています。この季節、ぜひ食べておきたい旬食材ですね。

2. 研修会報告

平成 28 年度 高次脳障がい者支援研修会



(医師およびコメディカル対象)

平成 28 年 11 月 4 日

ホテルニューカーリーナにて開催

11月4日に、「高次脳機能障害者の自動車運転再開の判断と支援」と題し、九州労災病院門司メディカルセンター院長蜂須賀研二先生をお招きして講演をいただきました。受講生は86名（医師14名、コメディカル等72名）と会場は満席でした。

蜂須賀先生が脳損傷者の自動車運転取り組むことに至った経緯や実際の症例の紹介、自動車運転再開とリハビリテーションに関する研究会の進捗や今後の方向性等について、分かりやすくお話しいただきました。

参加者のアンケート結果から、実際に高次脳機能障がい者への支援に関わっている方が47名（68%）と最も多く、高次脳機能障害への関心の高さがうかがえました。他に、「現在の自動車運転再開の基準について知ることができて良かった。」「自動車教習所や公安、警察等との連携が難しいように感じた。」等様々な意見が挙げられました。

蜂須賀先生の著書をご紹介します。ご参考にしてみてください。

金芳堂：

**高次脳機能障害者の自動車運転再開とリハビリテーション
「1」「2」「3」**

各定価（本体 2,800 円＋税）



岩手県でも脳損傷者が自動車運転を再開するためには、どのような基準を設けていったらよいのか、関係機関が話し合っている最中です。安全な自動車運転のために、皆さんも協力していきましょう！

3. 編集後記

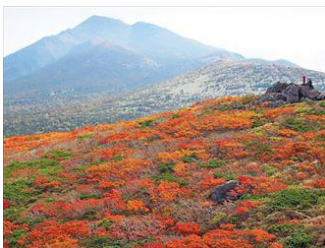
雪も降り始め、すっかり冬になってきましたね。今年の冬至は12月21日だそうです。日照時間も短くなり、一段と寒くなりますね…。皆さん、風邪を引かないように、かぼちゃを食べて、ゆず湯に入り体調管理に努めましょう！

ご意見ご感想はこちらまで メールニュース担当（佐藤・渡辺・富山・佐々木）

アドレス koujinou-shien-reha@irc.or.jp

◆◇いわて再発見◇◆

【三ツ石山】標高 1466m



山頂が、どの方向から見ても三つの岩峰に見える事から三ツ石山となったそうです。例年9月中旬～10月に紅葉の見頃を迎え、県内でも早く紅葉が見られるスポットです。来年はぜひ、絶景を眺めに行ってみてください！